

NHK-BS で放送された劔沢大滝登攀。秘境中の秘境。この映像を茶の間で見られるようになるとは。昨年秋は D 滝から U ターンしたが、今回は残雪期で D 滝の上が雪で覆われていたこともあって、上まで抜けた。ドローンを使った映像は秀悦。シビアな登攀なはずだと思うが、日本を代表するアルパインクライマーの中島ケンロウ氏は、撮影しながらの登攀でも余裕を感じる。

以下、2022年の無雪期の活動です。いつもの様に、適当に近くの山で遊んでました。

カミさんとの登山

5/7 雁田山 759m 長野県小布施町の山 日本百低山

5/21 角田山 480m 新潟市の山

7/9-10 尾瀬 鳩待峠～見晴～尾瀬沼～三平峠～大清水 ニッコウキスゲが綺麗。

9/3-4 尾瀬 鳩待峠～見晴～鳩待峠～戸倉

尾瀬ヶ原の平らなところしか歩いていないので歩き足りないと言っているので、戸倉までの車道を歩く。送迎バスと何度もすれ違い、ここを歩く人は流石に誰もいない。

9/25 角田山 480m 新潟市の山

10/1-2 尾瀬 鳩待峠～見晴～富士見峠～戸倉

富士見峠からは富士山を望む。紅葉が綺麗、栗拾いに興じる。

自宅からの自転車ライド+トレランのゼロエミッション登山。冬山登山のトレーニングを兼ねており、ここ数年はこのスタイルが定着。トレーニングと割り切って、同じ山を何度も登る。

6/18 米山 993m 大平口往復

7/2 米山 993m 大平口往復

8/20 米山 993m 大平口往復

9/10 米山 993m 大平口往復

これだけ自転車に乗っていると、通勤にも使っているトレイルバイクではなくて、もっと軽くてスピードを出せるロードバイクが欲しくなる。

10/9 妙高山 2454m 関川河口から赤倉温泉経由 Sea to summit なのでゴンドラは使わない。昨年の燕温泉経由よりも少し遠く、結構疲れた。来年は、ここよりも遠い池ノ平経由で行きたいと思うが、どうかな。もっと走りこまないと。帰りの自転車は冷たい雨。

10/15 米山 993m 米山寺より往復

10/23 米山 993m 米山寺に自転車を止めて、小村峠までラン。ここから米山経由で米山寺までの周回。

11/6 米山 993m 小村峠に自転車をデポし、カミさんに米山海岸まで車で送ってもらい、米山海岸から小村峠までの東西縦走。初冬の澄んだ視界で、頂上からは白馬岳を望む。頂上から小村峠までは枯れ葉を踏みながらの快適ラン。小村峠から自転車で自宅まで。

還暦を迎え、赤いチョッキの代わりに薄桃紫色の DPS のスーパーファットスキーを購入。日本に 2 台しか輸入されなかった貴重品。ビンディングを載せ替えて今月末に届く。DPS ならではの秀悦な滑りの感覚を堪能できるだろう。無謀にもゲレンデスキーの経験がないまま二十歳頃から始めた単独の山スキーは、かれこれ 40 年近くのキャリアとなった。年々豪雪のラッセルは体力的に厳しくなるけれど、もう 10 年ぐらいはできるかな。

以下、2022-2023 シーズンの山スキー、登山前日と登山後のコメントを記載します。

12/17赤倉山(2141m)

今シーズンの山スキーが始まります。

暖かい日が続きましたが、ようやく冬型の気圧配置になった。明日オープン予定だった池の平スキー場から登りますが、積雪が少ないためにオープンが見送られたので。雪が少なければ温泉に入って帰ります。

妙高の麓でも積雪が無かったのでスキーはできないかと思っていたが、スキー場の駐車場で 10cm の積雪があつて何とか登れそう。標高が上がるにつれて積雪が増えていき、スキー場のトップで 1m ぐらい。快晴、朝焼けの妙高山が綺麗。

スキー場のトップまで登る。ここより上は藪で登れない。誰もいないゲレンデを流していく。来週は、多くのスキーヤーやボーダーで賑わうだろう。

1/3黒姫山(2053m)

明けましておめでとうございます。

年末年始は、結婚した娘の帰省、その後に能登の和倉温泉でゆったりと過ごしておりました。

直江津は雪が無く、平穏でした。

明日は、今シーズン購入した DPS スキーの試運転を兼ねて黒姫山に行ってきます。

明日は吹雪のようなので、頂上には行けないでしょう。

適当なところまで登ってきます。

今年の年賀状も添付します。

今年の作品は尾瀬ヶ原。

当初ニッコウキスゲが咲いている湿原にしようと思いましたが、これだと観光ハガキになってしまうので、少し地味だがシダの葉の方に。アサギマダラを配して少し色を豊かにしました。

新潟中越での豪雪のニュースが放送されていますが、上越エリアはそれ程ではなく、山はまだ藪が多い。

ただ、しっかりとラッセルはあつて、遅々として進まない。

半分を少し過ぎた標高 1600m 迄とした。

さて、新調した DPS スーパーファットスキーは、トップの独特のスプーン形状のためかターンがスムーズで軽く、しかもスピードが落ちない、魔法のスキーである。

1/8 神奈山(1909m)

上越でも指折りの豪雪地の神奈山は年末に登ることが多いですが、今年は小雪で滑れるところが余りなく、年を越してここに登るのは初めてかも。

今日は暖かくて久しぶりに晴れましたが、明日は吹雪模様でしょう。標高 1400m 付近のブナ林のパウダーに期待します。

神奈山東側の静寂のブナ林を登っていく。

雪の結晶がどんどん降っている。

六角形の雪の結晶の先端の針が絡み合って隙間が多く密度が低い軽い雪。

標高 1600m からは尾根が細くなり傾斜が急になる。雪崩そうな雰囲気を感じたのでここまでとする。

晴れていれば頂上まで見渡せるのだが。本日と、頂上付近まで登った2年前の写真を添付します。

年末に会社の先輩が無くなった。

金沢大の同じ学部の先輩でもあったので、入社する前からの付き合いで、20 年前には同じ職場で苦楽を共にした。彼の笑顔を思い出しながら登っていた。

1/27 米山(993m)

雪が少ない日が続いたので、先週と先々週はカミさんと赤倉観光でリゾートゲレンデスキーをしていました。

ここ数日少し降雪があったので、明日は米山に行きます。

昨年も同時期に米山に登りました。今、しんと雪が降っていてかなり積もりそうですが、昨年よりは少ないかな。

雪の降る中、水野部落からの林道を、上越の夜景を見ながら膝ラッセルで登っていく。

昨夜はだいぶ積もったようだ。

日本海からの季節風が強く、1000m に満たない山なのに極寒。米山の前衛峰まで登る。ここから一度下り、スキー担いで胸までのラッセルで細尾根を登るのだが、そこまでの気合が無かった。一瞬だけ視界が開け日本海が見えた。

下りは、林道をショートカットするため谷を滑る。昨年は藪で滑れなかった。

谷の源頭の広い急斜面が不安定そうだったので、斜めに滑って雪面をカットして雪崩の発生がないことを確認する。パウダー滑降の前の何時もの儀式だが、教科書に書いているシャベルを使っての弱層チェックよりもこの方法の方が確実だと思う。

ここは立木が少なく、季節風で運ばれた底なしのパウダースノー。

登りでの一コマと日本海方面の写真を添付します。

2/4 米山(993m)

今週も米山に行きます。

今週は自宅周りで 60cm、直江津工場で 30cm の積雪でした。

例年よりやや少ない。明日は米山のパウダーを滑れる今年最後のチャンスでしょう。

新雪は少ないと思うのでスーパーファットではなく、ゲレンデでもっばら使っているセンター幅 106mm のファットスキーで行きます。

頂上から北側の斜面を滑って登り返します。

先週バックカントリーでの雪崩遭難が相次ぎました。

バックカントリーは、リフト+少しのハイクでオフピステを滑るお手軽スキーで山岳スキーとは少し違うと思うのですが、雪崩のリスクは同じで、どんなにスキーが上手くても、雪の状態が読めなければ悲惨な事故につながります。

自分への戒めとして安全第一で行きたいと思います。

ラッセルは殆どなく、快調に林道を登っていく。

先週引き返した南尾根の 805m ピークから一旦下って細尾根を見上げると、右側には大きく雪庇が張り出し、正面には雪壁がトウセンボしている。

スキー担いで左側から巻きながら雪壁を超えていく。

比較的しまった雪だが腰まで潜って難儀する。

先週は胸以上に潜っただろう。

カモシカの足跡を辿りながら頂上に達する。

頂上近くで大平から登ってきた 4 人パーティーと言葉を交わす。

今日、南尾根を登ったのは私とカモシカだけみたい。

本日のメインディッシュは頂上からの北東谷斜面。

立木が少ない真っ白な斜面を日本海眺めながら飛ばしていく。

標高差 250m 程滑って登り返す。

北東斜面の写真を添付します。

2/11 雨飾山(1963m)

直江津は夕方から雨で、明日は曇りでしょう。

明日の雨飾山の新雪は 50cm ぐらいだと思います。

雪崩に気を付けて行ってきます。

登山口の糸魚川根知谷の山寺部落は冷たい雨。

厳冬期は専らソフトシェルを着るのが好みだが(夏用だけど暖かいし、何といっても通気性が良い)、今日だけはゴアテックスの合羽にすれば良かったと悔やむ。

林道からは駒ヶ岳と鬼が面山の岸壁が見えるのだが、上部はガスで見えない。
林道を離れて北西谷を登っていく。標高 700m を過ぎると雨が雪になる。
ガスの中、スネから膝のラッセルで登っていく。
何とか 1472m ピーク手前の北西尾根に登ると正面に雨飾山が見える。
上品な猫のような綺麗な双耳峰。1472m ピークを過ぎたところが最もきれいなのだが、ピーク手前には細尾根と大きく張り出した不安定な雪庇があるのでこまめとする。
雨飾山が見えたのは一瞬で、滑っている時は再度ガスに包まれた。
ラッセルに苦労した割に軽いパウダーだったのは上部 200m 程で、その下は重い春の雪。
頂上は下山しても雲に包まれていた。
林道での鬼が面山と、1472m ピーク手前からの雨飾山の写真を添付します。
先週の米山で遭難がありました。
2 日後に大平からの西尾根の南側の沢で遺体が発見されたのですが、私が南尾根の滑降前に頂上ですれ違った女性だと思います。
ご冥福をお祈りします。
西尾根の 711m 通称セブンイレブンピーク上が細いのですがこの付近で滑落したのではないかと思います。
もし北側に落ちたのなら、以前ここを滑降したことがあるのですが、沢の水が現れることがないので、助かったのではないかと。
いずれにしても、米山は夏の印象とは大きく異なり、比較的登りやすい大平コースでも細尾根と急斜面で、初心者には厳しい山に思います。

2/18 烏帽子岳(1450m)

明日は海谷烏帽子岳。
4年振りです。
俊峰、尖がっています。
海谷の山は皆急峻ですけれど。
気温が上昇する前に登りたいと思います。

砂場部落の除雪終了点から締まった雪の上を歩いていく。
少し上の田んぼの大地に上がると正面に烏帽子岳につながる稜線が見える。振り返ると夜明けの銚が岳の双耳峰が美しい。無風、静寂の朝。割れた石の間に木が生えている。
烏帽子岳北尾根は何度も登った勝手知ったるルート。
スキーアイゼン利かせて登りやすそうなところを選んで高度を稼いでいく。
1350m の北烏帽子岳に上がると正面に烏帽子岳、隣に阿弥陀山が見える。毎度ながらすごい迫力だ。

烏帽子岳ドームの急斜面は雪崩そうなのでスキー滑降は諦め、スキーをデポして立山ワカンで直登する。膝から腰のラッセル。スキーで登ると勝手が違い、足がつりそうになる。

頂上の東側には巨大な雪庇が発達しており、どこまでが雪庇なのか解らないので、頂上手前までとする。

スキーデポ地に戻り北烏帽子岳に登り返し、北尾根を滑降する。

気温が高い割には北斜面なのでなかなかのパウダー。

振り返った鉾が岳、割れた石の間の木、阿弥陀山、烏帽子岳、頂上での写真を添付します。

3/5 鉾ガ岳(1316m)

明日は鉾ガ岳。

昨年、島道鉾泉のご主人の慰霊登山で登りました。

嵐が来そうなので頂上までは行けなかったけれど。

金冠山のトラバースでのブロック雪崩に注意して行ってきます。

昨年より 1m 程積雪が少ないかな。夜明け前のクラスト斜面を登っていく。島道鉾泉からの北斜面はテクニカルな急斜面。スキーアイゼンが良く効く。875m ピークに登ると金冠山の尖塔が見える。今年は大きな亀裂が横に入っている。金冠山の北斜面をトラバースして登っていく。亀裂の下の雪が落ちてきたらひとたまりもないが、今日の冷え込みでクラストしているはずなので大丈夫だろう。金冠山北斜面の上部は新雪が 30cm ぐらい積もっている。雪崩れるほどではないので白い斜面の真ん中を登っていく。ここを登ったところが大沢岳。昨年2月にここから発生した雪崩が麓まで達し、これに巻き込まれて島道鉾泉のご主人が亡くなった。島道鉾泉が真下に見えるすごい高度感。ご主人を想って黙祷する。頂上は小屋の屋根が少しと避雷針が出ていた。無風、日本海と焼山と海谷山塊の眺望を楽しむ。

滑降は、金冠山北のパウダーは良かったが、875m ピーク北はモナカで苦労した。

頂上と、875m ピークからの金冠山の写真を添付します。滑ったシュプールが見えますね。

3/25阿弥陀山(1511m)

明日は阿弥陀山。藪が無ければヒマラヤのような岩の双耳峰です。

大分融雪が進んでしまったので、登り口には雪が無いかも。

南岸低気圧の影響でガスで頂上が覆われてしまっているかもしれません。高曇りならば、いい風景を見れるのですが。

ブロック雪崩に注意して行ってきます。

雪は思いのほか結構あって、2月の時と同様に砂場部落の除雪修了点から、ガスの中 WBC の余韻に浸りながら登っていく。

仏岩を過ぎると前烏帽子岳からの雪崩のデブリを渡るところがあるのだが、先週の暖気で盛大に崩れたようで、スキーで歩けないぐらいの巨大な雪の塊で覆われており、緊張して通過する。

登るにつれてガスは薄くなり烏帽子岳が見えてくるが小雨が降りだす。阿弥陀山の東側はブロック雪崩が起きそうなので、吉尾平に降りずに前烏帽子までとする。ここは、烏帽子岳と阿弥陀山の展望台。雪がすっかり落ちた岩壁が黒々しい。

4/1阿弥陀山(1511m)

上越高田の桜が満開になりました。

阿弥陀山の黒い岩壁と正面から向かい合いたいので、今週も阿弥陀山に行きます。

融雪が進み、今週は雪不足で少々苦勞するところがあるかもしれません。

ブロック雪崩に注意して行きます。

先週より50cm程積雪が減った。

ウサギの活動が活発になってきているようで、あちこちで雪面を走り回っている。

前烏帽子岳のコルから吉尾平に下ると烏帽子岳、次いで阿弥陀山の黒々とした岩壁を眺めながら進んでいく。

これらの山は直江津からも遠く眺めることができるが、毎度ながら間近で見ると圧倒的な迫力だ。

暖かい日が続いたので、今年の雪崩のデブリは顕著に黒い。

双耳峰の阿弥陀山北峰へは雪が繋がっていないので、南側から南峰を登ることにする。南峰へのコルに上がるとここから上も雪が繋がっていないのでここまでとする。

吉尾平を眼下に素晴らしい高度感。

ザラメの雪と時々黒いデブリの感触を味わいながら吉尾平を横断していく。

前烏帽子に登り返してまた来年ね、と挨拶して家路についた。

登山口の砂場部落の廃寺の枝垂れ桜が綺麗だった。

仏岩とウサギ、吉尾平からの烏帽子岳、阿弥陀山の写真を添付します。

4月23日 火打山(2462m)

週末の天気がイマイチだったのでしばらくお休みしておりました。

明日は火打山。北面のフヨ谷源頭の滑降がメインなので、頂上までがアプローチになります。

去年は新建ドームまでしか行けなかったもので、もう少し先まで滑ってみたい。

晴れていましたけど、寒い日でした。出発時、登り口の笹ヶ峰が-2℃。雪は少なく、昨年より2週間早いにも関わらず昨年よりも少ない。来週には笹ヶ峰の雪は無くなりそう。

スキー担いでクラスト斜面をアイゼン履いて登っていく。

頂上に着いて強風の中、北側を滑降するがカリカリのアイスパーン。エッジの跡もつかない。転倒したら絶対に止まらないので集中して新建ドームまで滑降する。ここから下のフヨ谷は一段と斜度が高くなる。フヨ谷の滑降は来年にとっておこう。

頂上に登り返して南斜面を滑る。上部はクラスト気味だが北側に比べると快適。斜面の真ん中を飛ばしていく。多くのギャラリーがいたので調子に乗ってこけない様に一気に滑り降りる。

久しぶりに人がいる山に登りました。楽しかったです。

頂上と火打山の南側の写真を添付します。

5月20日 蓮華岳(2799m)

雪が少なくあまり滑るところが無いし、モチベーションも上がらなかったのもので暫く休んでおりました。

半年に及んだスキーシーズンはそろそろ終わり。明日は定番の蓮華岳に行きます。

昨年より1週間早いです、どれだけ雪がありますかね。

大沢も昨年より1.5m程雪が少ない。

大沢左俣を登る予定だったが、これだと急峻な中間部の雪が繋がっていないかもしれない。

ということで、ノーマルルートと言うべき右股を登る。

締まった雪にアイゼンの前歯を利かして登っていく。

ここの登りが体力のバロメーター。年々体力が落ちている感じはする。

頂上に着き、反対側の安曇野方面の北葛谷の源頭を滑る。

ここを滑るために頂上を越えてきたのだ。

フラットな白い斜面。昨年は標高差400m滑ったが、今年は300mで打ち止め。雲海の中に入ったので。

頂上に登り返し(この登り返しは結構きつい)、若一王子奥の院にお参りして大沢右股を滑って、今晚のビールのお供のイタドリを摘みながら家路についた(イタドリの新芽は山菜としては見なされていないようで取り放題)。

頂上と北葛谷源頭の写真を添付します。

雪がたっぷりあれば来週もと思っていたが、思ったよりも少なかったのもので、今年の上スキーはこれでおしまい。

無事故でコロナに罹患することなくつつがなく過ごせました。

それではみなさま、ごきげんよう。